

くすり博物館だより

VOL. 49

平成15年(2003)4月

NAITO MUSEUM OF PHARMACEUTICAL SCIENCE AND INDUSTRY



内藤記念くすり博物館
〒501-6195 岐阜県羽島郡川島町竹早町1
Tel:(0586)89-2101 Fax:(0586)89-2197
http://www.eisai.co.jp/museum/

企画展 くすりの広告文化 —看板・錦絵広告・ポスターの世界— 2003年4月26日～11月30日

テーマ特集◆ポスターに見るくすりの広告

今日では、外を歩けば看板、家の中でもTVや新聞・雑誌、インターネットのホームページ等さまざまなメディアに広告を見ることができます。私たちはさまざまな広告に囲まれて生活しているということができます。

もともと「広告」という言葉は、英語の advertisement の訳語として明治時代初期に造られた言葉といわれています。また中国では、「看板」は「招牌」と呼ばれており、客を「招く」札を意味しています。日本語の「看板」は安土桃山時代末までは「鑑板」の文字が当てられていたという説もあり、商品や店を「見分ける／識別する」板という意味であったと思われます。このように、商品や店を他と区別するために「広告」や「看板」を必要としてきました。特に薬は、立派な看板を持った店舗や薬効がくわしく書かれている広告によって信用が増すと考えられ、豪勢な金看板や華やかな錦絵広告が作られました。また、時代が下るとポスターが店先に張られるようになりました。

今回の企画展では、江戸時代～昭和初期の錦絵広告・ちらし・ポスターなどの広告類と紙看板・置看板などの看板類を紹介します。広告文や挿絵から、当時の社会情勢や医薬に対する考え方を知ることができます。また金看板や錦絵広告のように、製作技術や生活様式の変化に伴って今では見られなくなった種類のものもあります。このような資料展示を通して、広告文化という観点から薬についてより理解を深めていただきたいと思います。



▲眼鏡肝油[ポスター]伊藤千太郎商会/大阪/昭和20年以前/107×76
滋養強壮に用いられた肝油のポスター。ソプラノ歌手の宮川美子を宝塚ホテルで撮影した写真を使用している。



◀敬震丸・活寿丸[ポスター]
犬伏元貞/徳島/昭和20年以前/77×34
敬震丸は江戸時代から伝わる頭痛薬。地元での販売に加えて、配置売薬も行われた。

■資料の説明は、
資料名[種類]薬の製造元/販売元/製造元の所在地・販売元の所在地/年代/サイズの順に記載しました。データのないところは省略しました。
■サイズの単位はcmです。

笑顔にひかれて

注目を浴びるデザイン

薬の広告デザインにはいろいろなパターンがありますが、女性の姿を描いたものも多くあります。女性の笑顔は“看護婦さん”や家庭で看護してくれる“お母さんのイメージ”に通じるものがあり、安心感や親しみやすさをもたらしたことでしょう。明治時代以降の医薬の硬いイメージをやわらげる作用があったかもしれません。

▶セイビ [ポスター]
佐藤ライト商会/大阪/
79.6×53



▲セメンエン [ポスター]
本江進盛堂薬房/富山/54×
19



◀浅井万金膏 [ポスター]
森林平/愛知/明治/77×53

▶胃腹丸・トンプク [ポスター]
増田兄弟商会/大阪/
昭和20年以前/38.9×
27.0



▼クラブ美身クリーム [ポスター]
中山太陽堂/大阪/昭和7年/104×38



◀イチゲキ [ポスター]
関西ハイトリ紙製造/昭和20年以前
/77×35

店に張ってあったら

美しさではなく、面白さで目を引くポスターや、こんな風になりたいという願望を表したものもあります。時代や薬の種類によって、さまざまなポスターが作られました。

デザインのおもしろさ

笑顔にひかれて

注目を浴びるデザイン

薬の広告デザインにはいろいろなパターンがありますが、女性の姿を描いたものも多くあります。女性の笑顔は“看護婦さん”や家庭で看護してくれる“お母さんのイメージ”に通じるものがあり、安心感や親しみやすさをもたらしたことでしょう。明治時代以降の医薬の硬いイメージをやわらげる作用があったかもしれません。

▶セイビ [ポスター]
佐藤ライト商会/大阪/
79.6×53



▲セメンエン [ポスター]
本江進盛堂薬房/富山/54×
19



◀浅井万金膏 [ポスター]
森林平/愛知/明治/77×53

▶胃腹丸・トンプク [ポスター]
増田兄弟商会/大阪/
昭和20年以前/38.9×
27.0



▼クラブ美身クリーム [ポスター]
中山太陽堂/大阪/昭和7年/104×38



◀イチゲキ [ポスター]
関西ハイトリ紙製造/昭和20年以前
/77×35

店に張ってあったら

美しさではなく、面白さで目を引くポスターや、こんな風になりたいという願望を表したものもあります。時代や薬の種類によって、さまざまなポスターが作られました。

デザインのおもしろさ

エーザイ・コーポレート・ラウンジをリニューアルしました



くすり博物館本館3階のリニューアルにあたっては、まず近年エーザイがグローバルに展開している事業を反映して、海外の研究開発・生産・販売の拠点や、グローバル製品であるアリセプト・パリエットをパネルで紹介いたしました。また、少子高齢化時代とともに、痴ほうについての関心が高まっていることから、痴ほうに関する情報スペースを設けました。

情報スペースには、DVDシアターと情報端末を設けました。DVDシアターでは、テレビ広告部門で経済産業大臣賞を受賞した「澤口家の夏」をはじめ、痴ほうに関する短いビデオを4本見ることができます。情報端末は、エーザイ(株)とファイザー製薬(株)が共同で運営しているホームページ「痴ほうを、あきらめない。」を、インターネットを介さずに閲覧できるスタンドアロンタイプです。痴ほうについての正しい知識、患者さんへの対処法、チェック法などを学べますので、ご来館の上、ぜひご利用いただきたいと思ひます。

館長 篠田愛信

- ▶ DVDシアター
上映時間は8～19分で見たい番組を選択できます。
- ◀ 情報端末
操作しやすいトラックボールとクリックしやすいスイッチでどなたでも、簡単にご覧いただけます。
- ▶ エーザイ・パブリシティ・ラウンジ
エーザイの概要をパネルで紹介しています。



◆100万人目の来館達成

2002年12月6日、団体旅行で奈良県からご来館いただいた平井喜代治様(72才)が100万人目の来館者になりました。「初めて来てびっくりしました。光栄です」と喜ばれていました。



写真は前列左より篠田愛信館長、西埜宗明様(99万9999人目)、平井喜代治様(100万人目)、胡内圭子様(100万1人目)、エーザイ川島工園阿部部長。奥左より当館アドバイザー・逸見誠三郎、当館顧問・青木允夫

新収蔵資料を紹介しします



◆ 泉月しょうぶ湯

文化12年～文政9年 国貞 37.5×75.5

5月5日は古くは薬日(くすりび)といわれ、さまざまな健康祈願の行事が行われました。菖蒲を頭に巻いている子どもや女性でにぎわう風呂屋の様子が描かれています。

◆ 巾着 9.5×10

きんちゃくは小銭入れやお守りや薬を入れる袋として使われました。生地は縮緬や羅紗で、刺繍が施されているものも見られます。



◆◆資料・図書ご提供者ご芳名◆◆

青木紘三 生田晃三 池畑尚
金成圭章 北川勲 熊谷康夫
河野亨 小西義廣 桜井謙介
鈴木稔 須田寛 竹村一三 豊橋市
医師会 中島路可 長友千代治
(社)日本医薬品卸業連合会
轡谷健 船戸彰 松木明知

～ありがとうございました～
(敬称略/五十音順)

くすり博物館 HP がさらにパワーアップ

- HP「くすりの博物館」では、館長と学芸員のコラム、鍼灸のクイズやツボ体操のコーナーを新設、3月からは「タマでもわかるお薬のはなし」を開始しました。ぜひアクセスください。
- 収蔵図書の内容を、画像ファイルとして保存するデジタルアーカイブ化を昨年度より進めています。全ページを閲覧できる「収蔵品デジタルアーカイブ」コーナーを設けました。初回は2点ですが、少しずつ掲載図書を増やしていく予定です。研究資料としてご活用ください。

「くすりの博物館」→「内藤記念くすり博物館のご案内」→「施設紹介」→「図書室」→「収蔵品デジタルアーカイブ」からご覧ください。

<http://www.eisai.co.jp/museum/>

◆昨年度の企画展

企画展「鍼のひびき 灸のぬくもり」の会期中の来館者は24,764名でした。針灸師の方や針灸を学ぶ学生の皆さまをはじめ、多くの方にご来館いただき、ありがとうございました。

◆第10回植物画作品展開催

植物画講座の受講生28名による作品の展示が、2月25日～3月22日に行われました。

内藤記念くすり博物館

開館/9:00～16:00
休館/月曜日
年末年始(12/28～1/8)

館長 篠田愛信
学芸員 稲垣裕美(編集担当)
学芸員・司書
野尻佳与子 伊藤恭子
庶務 森田麻起子 小田明子
小島敦子(見学受付)
林知子(図書整理)
薬用植物園(栽培管理)
岡谷辰行 栗本裕康 亀谷芳明
顧問 青木允夫
アドバイザー 逸見誠三郎